

R8.7.3 I 研修参加者アンケートのまとめ

A: 本日の研修で印象に残ったこと・内容をご記入ください。

1. キーパーソンの重要性

- ・愛着に課題のある子どもには、その子を深く理解し、一対一で丁寧に向き合うキーパーソンが必要だと学んだ。
- ・キーパーソンは主導権を握り、全体を見渡ししながら、安心できる信頼関係を築くことが大切だと知った。

2. 子どもへの適切な関わり方

- ・子どもの気持ちを受け止め、言葉にして寄り添うことが重要であると感じた。
- ・気持ちは受け止めながらも、悪い行動は認めず、安心して行動できるよう支えていくことが大切だと学んだ。

3. 虐待の加害者と対極の存在になること

- ・感情的に怒鳴ったり、子どもを否定したりせず、安心感を与える対応をすることが大切だと学んだ。
- ・子どもの言動に振り回されず、同じ土俵に立たない毅然とした態度と、落ち着いた対応を心がける必要があると知った。

4. 愛着に課題のある子どもの理解

- ・攻撃的な行動の背景には、「本当は大切にされたい、信じたい」という思いがあることが分かった。
- ・発達障害と愛着についての課題の共通点と違いを理解し、個々に応じた支援を行う必要性を感じた。

5. 具体的な支援と実践

- ・気持ちの言語化や、先に指示を出して褒めるなど、実践的な方法を学んだ。
- ・事例や対話を通して、教師集団の信頼、環境調整、振り返り、成功体験につながる評価の大切さを理解した。

B: 本日の学びや気づきを生かし、今後どのように取り組もうと思われませんか。

1. 愛着面や家庭背景の理解

- ・子どもの行動だけで判断せず、愛着面や家庭環境などの背景を理解しながら関わっていききたい。
- ・愛着障害やネグレクトなどの可能性がある子どもを見逃さないよう、日々の様子を丁寧に観察したい。

2. 職員間での情報共有と連携

- ・園や学校で気になる子どもの事例や支援について、職員間で研修内容を共有していきたい。
- ・一人で抱え込まず、チームで話し合いながら継続的に支援していきたい。

3. 子どもへの言葉かけと信頼関係づくり

- ・「先に指示を出して褒める」ことを意識し、言葉かけを工夫しながら子どものできた経験を増やしたい。
- ・キーパーソンとして子ども一人一人に寄り添い、尊敬や信頼される存在を目指したい。

4. 感情を抑えた落ち着いた対応

- ・感情的に怒ったり嫌味を言ったりせず、嫌なことを言われた時も平常心を保てるようにしたい。
- ・むっとしたときには一度立ち止まり、先の対応を考えて、保育者自身が落ち着いて行動したい。

5. 学んだ内容の実践と振り返り

- ・研修で学んだことを2学期からの日々の保育や学級経営に生かし、叱る基準や静かな時間の設定にも取り組みたい。
- ・現在の支援を振り返りながら、子どもや家庭をよく観察し、より良い関わりを継続していきたい。